

(技料)

厚生労働科学研究費補助金  
健康安全・危機管理対策総合研究事業

エステティックにおけるフェイシャルスキンケア技術の  
実態把握及び身体への影響についての調査研究

(H22-健危-一般-008)

平成23年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 大原 國章

平成24年(2012)年 3月

エステティックにおけるフェイシャルスキンケア技術の  
実態把握及び身体への影響についての調査研究

研究代表者 大原 國章（財団法人日本エステティック研究財団 理事長）

研究要旨

目的

本調査研究は、エステティックにおける身体への健康被害防止に寄与することを目的に、昨年度はフェイシャルスキンケアの施術方法や安全性、危害の現状等について調査した。今年度は、不特定多数が利用することで感染症の可能性のあるエステティックの衛生管理の現状を把握するために、実態調査票による現状調査と1都5県のエステティック24店舗を視察して調査した。また実態調査票では施術における皮膚トラブルの実態を明らかにするとともに、施術用化粧品の皮膚安全性試験及び熱傷を起こす可能性のある施術用エステ機器2機種の実験を行った。今後はエステティックでの衛生管理が適正に実施されるよう、衛生等の専門家の意見を参考にしながらエステティックの衛生管理マニュアル等の策定及び適正な消毒等が行われるよう施設への普及の方策を検討することに加えて、施術時の化粧品やエステ機器の使用法や安全に施術を行うための施術者教育についても提言する。

方法

沖縄県を除く全国2,200店舗のエステティックに実態調査票（衛生管理の現状を知るための21の質問、化粧品や施術用エステ機器による皮膚トラブルの有無やトラブルへの対処方法を含む質問等）を郵送し、770店舗（回収率35.0%）から回答を得た。またエステティックの衛生管理の現状を把握するために、調査票の回答に加えて保健衛生の専門家を中心に1都5県のエステティック24店舗を視察及びヒアリング調査した。施術用化粧品の試験は、20歳以上49歳未満の日本人健康成人女性21名を被験者に、実態調査票の回答にあった皮膚トラブルを生じたことがあると思われる17試料を含む22試料の48時間閉塞性パッチテストで皮膚への皮膚安全性（刺激指数）を判定した。施術用エステ機器2機種《IPL(Intense Pulsed Light)脱毛器、RF(Radio Frequency)美容機器》の熱傷誘発試験は、寒天（無色、褐色、黒色の3色）及び豚皮（白色、黒色の2色）を検体に使用して施術直後の検体それぞれの表面温度の変化を測定した。高出力、同一部位への反復施術、同一部位への長時間施術、冷却用ジェルの無塗布など通常の使用法を逸脱した使用方法についても検討した。

## 結果

エステティックの衛生管理実態調査では、衛生管理マニュアルの有無をはじめ、タオルや繰り返し使用する備品類の消毒方法、施術者の手洗い及び消毒の実施など 21 項目の質問に対して、80%以上実施していると回答したのは全体の 28.4%。実施率が 49%以下だった店舗は 14.2%だった。全体として衛生管理の重要性の認識はまだ低い、衛生管理責任者を決めている店舗や衛生管理マニュアルのある店舗では実施率 80%以上がそれぞれ 82.6%、84.6%と高いことから、日常的に衛生管理を実践する事例として衛生管理責任者の存在やマニュアル等の常備は見逃せない点である。かぶれ等の皮膚トラブルの原因と思われる施術用化粧品 17 試料を含む 22 試料の 48 時間閉塞パッチテストの判定の結果は、皮膚刺激指数 15 以上 30 未満で「改善の余地あり」に相当するものが 3 試料あったが、実使用上は皮膚に長時間塗布するものでないことから安全性に問題ないと判断する。その他の 19 品については許容品もしくは刺激性が低く安全な製品であった。施術用 IPL 脱毛器の実験では、表面温度の上昇は軽度であったが、色の濃さや反復照射回数と表面温度の上昇率に相関があることから、施術時には同一部位への反復照射を避け、皮膚の色の濃い場合には出力を下げる等の注意が必要と考えられた。施術用 RF 美容機器では、同一部位への長時間施術や冷却用ジェルの無塗布など、通常と異なる使用方法で表面温度は非常に高くなったことから、特に適正な使用方法の順守が強く求められることが分かった。

## 結論

エステティックは不特定多数の消費者が利用し感染症の可能性はあるが、調査結果を見る限り全体的に衛生管理の実施状況には不備が見られる。一方で、衛生管理責任者を決めている店舗、衛生管理マニュアルのある店舗では、他の店舗に比べて衛生管理の意識や消毒等の実施率は高い。この結果を踏まえて、実践に適したマニュアルやチェックリスト等の策定と普及のための方策を検討する必要があると考える。また施術に際し、様々な化粧品を用い、エステ機器等を使用して施術を行っている。本年度実施した化粧品のパッチテストやエステ機器 2 機種の実験結果を踏まえて、サロンでは化粧品やエステ機器をどのように使用しているのかを実地検証するとともに、安全に使用するための前提となる必要な情報を事前にどれだけ修得・把握していたかを調査し、安全に施術を行うための施術者教育についての提言が必要と考えた。